

海が大変だ！

海洋プラスチックごみ問題を考える

学校の関連学習単元

小4/理科 雨水のゆくえ
小5/理科 流れる水のはたらきと土地の変化
小6/社会 私たちの生活と環境
小6/理科 生物の地球環境

プログラム概要

対象 幼 小1 小2 小3 小4 小5 小6 中学 大人
○ ◎ ○

分野	時期	時間	人数	場所	講師	費用
廃棄物	通年	45分 (1時限)	40人 (1クラス)	教室	1人	無料



廃棄物

ねらい

- ・海洋プラスチックごみ問題の現状と私たちの生活や生態系に与える影響を知る。
- ・3R（リデュース・リユース・リサイクル）と Recover（リカバー：清掃活動）の必要性を知る。
- ・自分にできることを考え、実践できるようにする。

実施内容

- ・ごみが漂着している海岸の現状とその主な原因となっているプラスチックについて説明を聞く。
- ・買い物をするときに、レジ袋とエコバッグのどちらを使うか様々な観点から考える。
- ・様々なごみとその種類ごとの自然界での分解年数を結びつけるクイズをする。
- ・海洋プラスチックごみ問題について自分ができることをグループで考え、発表する。

事前準備

◇受講者が準備すること ◆講師が準備すること

◇話し合いのためグループ分け（4～6人）

使用する材料・道具

◇受講者が準備するもの ◆講師が準備するもの

◇パワーポイントが入ったパソコン
◇プロジェクター、スクリーン

◆レジ袋
◆エコバッグ（プラスチック製・綿製）
◆ごみ分解年数当てクイズシート（ごみカード・磁石等）
◆海岸漂着ごみやマイクロプラスチックのパネル
◆ワークシート

講座活用のワンポイントアドバイス

- ・「今日から我が家の分別係」「ごみはトラベラー」のプログラムと併せて受講すると、理解が深まります。
- ・講座の実施後で海岸等の清掃活動に取り組むと、講座で学んだことや考えたことを実践することができます。

実施機関

浜松市環境政策課（浜松市環境学習指導者）

下記連絡先へ実施日の1ヶ月前までに申し込んでください。

また、実施の決定後、事前打合せが必要なため、講座実施の2週間前までに講師へご連絡ください。

問合せ・申込先：浜松市環境政策課 TEL:053-453-6149 FAX:050-3606-4345

E-mail:kankyout@city.hamamatsu.shizuoka.jp



プログラムの展開例

時間	内容	指導のポイント
導入 7分	<p>○ごみが漂着している海岸</p> <ul style="list-style-type: none"> ごみが漂着している写真を見せて、以下のことを問いかける。 <ul style="list-style-type: none"> この海岸を見てどう思うか 写真にはどんなごみが多いのか。どんなごみが多いと思うか。 海のごみがどこからくるのか <p>○プラスチックと私たちの暮らし</p> <ul style="list-style-type: none"> プラスチックの利便性 広く普及したことによって生じてきた問題 	<ul style="list-style-type: none"> 海洋ごみの種類は、海岸漂着ごみのパネルも使い、身近な海岸でもごみがあることを意識させる。 海洋ごみにはプラスチックが多いことを理解させる。 プラスチックによる恩恵と問題の両方を認識させる。(プラスチックを一時的に悪い扱いとしない)
体験 35分	<p>○レジ袋とエコバッグのどちらを使う？</p> <ol style="list-style-type: none"> ①レジ袋/エコバッグ(プラスチック製)を見せて、価格や耐久性などの比較をする。 ②①を踏まえて、買い物に行くのなら、レジ袋とエコバッグのどちらを使うか尋ねる。 ③レジ袋とエコバッグの特性を整理し、エコバッグは繰り返し使うことを伝える。 <p>○3Rの大切さを学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記レジ袋とエコバッグの選択を事例に、プラスチックごみを生まないために、3Rの内容やその優先順位を理解する。 【リデュース】繰り返し使うのであれば、エコバッグの方が良い。 【リサイクル】レジ袋を使う場合も、使い終わった後は燃えるごみではなく、リサイクルが良い。 【リデュース】そもそも使わないので済むのならば、それが一番良い。 <p>○【リカバー】も大切</p> <ul style="list-style-type: none"> ごみが漂着している海岸の写真を改めて見せて、なぜこのような状況になっているのか問いかける。 野外に放置されたごみがどうなるのか問いかける。 ごみ分解年数当てクイズ <ol style="list-style-type: none"> ①講師がごみカードを掲げ、自然界で分解するまでに必要な年数を短い方から言っていくのに対し、参加者がそうだと思う年数の時に挙手する。 ②答え合わせ ③①と②をごみカードの種類ごとに行う。 海洋プラスチックごみやマイクロプラスチックが与える悪影響を知る <ul style="list-style-type: none"> 生態系への影響 私たちの生活への影響 既にある海洋ごみを拾わなければならないことを伝える。(リカバー) <p>○自分たちにできることを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで海洋プラスチックごみ問題に対して、できることを考え、発表する 	<ul style="list-style-type: none"> 各観点の比較を一覧表にまとめる。 回答後、製造から廃棄までのCO2排出量はエコバッグの方が多いいことを伝え、再度考えさせる。 優先順位： <ol style="list-style-type: none"> ①リデュース②リユース③リサイクル レジ袋とエコバッグのどちらにも利点があることを認めた上で、「環境に良い」というのは単純ではないことを伝えるとともに、場面によって使い分けることも大事であると補足する。 3Rができていても海岸にごみが多い理由を気付かせる。 海洋プラスチックごみ問題では、3Rのほかにもリカバーも大切であることを意識させる。 何気なく捨てられたごみが、何十年、何百年に亘って残り続けることを理解させる。 正答と参加者の回答に差がある場合は解説する。 最後に人工物と自然物の傾向についても補足する。 ポイ捨てだけでなく、ごみ集積所等からの非意図的な流出も原因であることを補足する。 各グループの発表に補足情報等をコメントする。 ポイ捨てをしない、海岸清掃をする、といった対症的な取り組みだけでなく、根本的にはライフスタイルを変容していく必要があることを気づかせる。
まとめ 3分	<p>○自分にできることの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 3Rを実践する 消費生活を見直し、プラスチックが使われていない製品を選ぶ 海岸等の清掃に参加する 家族等にこの講座で学んだことを伝える など <p>○海洋プラスチックごみに対する現在の取組の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本や世界の事例 日本のことどもたちの取組 など 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、講座で扱ったトピックと結びつけてまとめる。 身近でできる取組も紹介する。 プラスチックをなくすのではなく、使い方や暮らしを見直していく必要があることを伝える。

< 発展例 >

上記の展開のほかに、90分(授業2コマ)の場合は、参加者で朗読劇を行うこともできます。

